☆年間第23主日（9月10日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（エゼキエルの預言 33 章 7-9 節）

主の言葉がわたしに臨んだ。
人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。
あなたが、わたしの口から言葉を聞いたなら、わたしの警告を彼らに
伝えねばならない。わたしが悪人に向かって、『悪人よ、お前は必ず死なね
ばならない』と言うとき、あなたが悪人に警告し、彼がその道から離れる
ように語らないなら、悪人は自分の罪のゆえに死んでも、血の責任を
わたしはお前の手に求める。しかし、もしあなたが悪人に対してその道から
立ち帰るよう警告したのに、彼がその道から立ち帰らなかったのなら、
彼は自分の罪のゆえに死に、あなたは自分の命を救う。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 13 章 8-10 節）

皆さん、互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあっては
なりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。「姦淫するな、
殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があっても、「隣人を
自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。愛は隣人に悪を
行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

福音朗読　（マタイよる福音書 18 章 15-20 節）

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「兄弟があなたに対して罪を
犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き
入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、
一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口に
よって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、
教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人
か徴税人と同様に見なしなさい。

はっきり言っておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。また、はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。
二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

朝晩は少しだけ過ごしやすくなったでしょうか。それだけでもずいぶん助かりますね。気持ち的には秋ですからね。

さて今日の主日の祈りは何を主題としているのでしょうか。集会祈願では、「御子を信じる人々に、まことの自由と永遠の喜びをお与えください」とあります。普段私たちは自由だと考えていますが、「まことの自由」にはまだ至っていないのでしょうか。例えば、誘惑に打ち勝てないのはまだ不自由な存在の証ではないでしょうか。「永遠の喜び」となると未だ経験していないのですね。先日森司教様、8 日には西川神父様が亡くなられました。今は永遠の喜びをあじわっておられることでしょう。しかし、この永遠の喜びは亡くなってから与えられるものでは決してないのです。神の国は今、もう、始まっているからです。この永遠の喜びが私たちに与えられるよう祈ると同時に、その喜びに生きるようにしましょう。

第一朗読　（エゼキエルの預言 33 章 7-9 節）

ここでは預言者の務めの一つが語られています。「私の警告を彼らに伝えねばならない」、つまり、人に忠告する任務です。つまり、「知らん顔するな」ということでしょうか。人が悪いことから立ち直るように忠告する義務があるということです。もちろん忠告するためのやり方は当然よく考えなければなりませんが。預言者たちはこの務めを主なる神からはっきりと告げられた人たちでした。当然様々な反対や迫害がありました。でも主なる神はそんな困難

な中にもかならず、「私はいつもあなたとともにいる」と告げ、助けを与えられたのです。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 13 章 8-10 節）

今日読まれた部分は短いですが、大切なことを含んでいます。愛は律法の完成だということです。イエスはファリザイ派の人たちや律法学者たちと話し合ってきましたが、「愛は律法の完成だ」ということを彼らは十分に理解していませんでした。ですからイエスから「偽善者たち」と非難されたのです。律法は愛を制限できないのです。ですからイエスは愛のために、律法の条文を犯されたと言ってもいいのではないでしょうか。別のところでは「人の子は安息日の主である」とも言っておられるのです。パウロはイエスが命じられた「隣人を自分のように愛しなさい」と語っています。パウロはいろいろの手紙の中で教会の貧しい人々を助ける人々や貧しい教会を助ける教会のことを語っています。自分の教会だけが良いだけではよくないということなのです。

福音朗読　（マタイよる福音書 18 章 15-20 節）

第一朗読に語られる、神を信じる人々の務めが語られています。「兄弟を得る」ことです。イエスを信じているということは自分さえよければ良いということではないのです。私たちは誰かと　天国に行くのです。一人ではいかないのです。またイエスは次のように言われます。「二人三人が私の名によって集まるところには、わたしもそのなかにいる」と。つまり私たちの集まり、日曜日のミサの集まりに主イエスも一緒におられると仰っておられるのです。すごいことですよ。また、そんなに大勢でなくても、二、三人でもと言われているのです。家族でも一緒に祈るときにそこに主イエスがともにおられるのです。この事実をもっと感じ信じましょう。

那須高原で見た花（何の花か名前がわからない）2023 年 8 月

P.S.

今年はまだまだ暑い日が続くようです。暑さに負けないように頑張りましょう。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光